

— 大樹町宇宙航空課ニュースレター —

Taiki Aerospace News

北海道スペースポートの整備状況

町では、令和4年度から北海道スペースポートにおいて、人工衛星を搭載するロケット用の発射場「Launch Complex 1（LC1）」の整備を進めてきました。

昨年度からは、「Vehicle Assembly Building（VAB）」と呼ばれるロケット組立棟の整備が本格的に始まり、外観はおおよそ完成しており、現在は内部の工事を行っています。VABは、高さ：12.145m、幅：21.5m、奥行き：49mとなっており、延床面積は1095.45㎡でその大きさは25mプール約2面分となります。

VABには、メインフロアや衛星統合室（クリーンルーム）、エアロック、サーバー室、荷下ろし場、空調機械室などがあります。メインフロアでは、移動発射台の上にロケットのタンク、フェアリングの組立てや結合、整備、点検を行います。

また、衛星統合室は、内部がクリーンルームと呼ばれる塵やホコリなどが入らないように管理されており、この部屋において衛星部品の統合や最終組立が行われます。



VAB外観

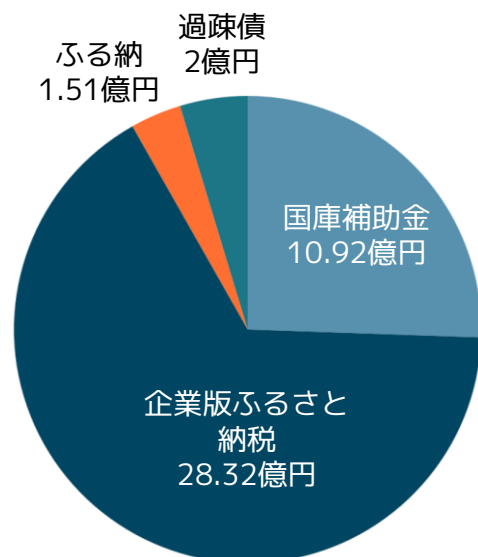


海側からのLC1射場

大樹町による整備工事に併せて、優先打上げ事業者であるインターステラテクノロジズ社が独自財源で打上げに必要な設備を整備しており、官民共創の好事例として全国から注目を浴びています。

LC1の大樹町整備分における総事業費は、42.75億円であり、その内訳は、国からの交付金が10.92億円、LC1整備のためにと企業からいただいた企業版ふるさと納税が28.32億円、個人版ふるさと納税が1.51億円、過疎債が2億円となっています。

当初の総工費は23.2億円でしたが、資材や労務単価の高騰等のため約20億円の増額になった中、町とともに宇宙のまちづくりを進めるSPACE COTAN社が全国の企業を訪問し、この取り組みに共感してくださる企業との輪が広がったことで、目標額を達成することが出来ました。



LC1整備費内訳

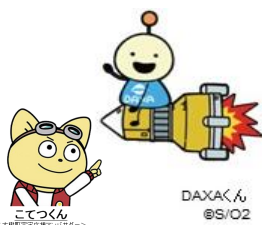
大樹エアロスペーススクール2026の開催

8月18日から21日にかけて、HOSPOにおいて「**大樹エアロスペーススクール2026**」を開催しました。本プログラムはJAXAとの共催で行い、十勝管内の宇宙・農業関連企業から講師を招き、宇宙に触れてもらうことを目的とし、全国から**20人が参加**し、大樹高校からは**遠地 和音**さんが参加しました。



期間中は、JAXAやSPACE COTAN、インターステラテクノロジズ、十勝農業協同組合連合会による講義のほか、エム・エス・ケー農業機械によるロボット農機の乗車体験、ズコーシャによるドローン操縦体験など、幅広い分野を学びました。3日目のモデルロケット打上げ実習では、ロケットのフェアリング部分に生卵を載せて打上げ、高度、射点からの落下距離、卵の状態の3項目で得点を競い合いました。

参加者にとって、普段は体験できない学びと仲間と出会える**貴重な4日間**となりました。



衛星画像はどのように農業分野で利用されているの？～今日のなんちゃら雑学～

十勝の農業では、人工衛星から地表に向けて電波を送り、その反射の違いから作物の生育状況を調べているんだよ～！そのデータをもとに「生育マップ」を作成し、元気な場所は肥料を少なめ、生育が遅れている場所は多めにするなど、トラクターが畑の場所ごとに肥料の量を自動で調整しているんだ！

第26回ペットボトルロケットコンテストin大樹の結果！

8月2日に行われた「歴舟川清流まつり」のイベントとして「**第26回ペットボトルコンテストin大樹**」を開催しました。

今年は規定の部22名・自由の部5名の**計27名**が出場し、晴天に恵まれ、非常に暑い日となりましたが、参加者はこの日のために作成した機体で飛距離を競い合い、子どもから大人まで白熱した戦いを繰り広げました。

規定の部優勝者は、92.06mを記録した谷定 ニイナさん。自由の部優勝者は、小松 博さんが128.12mという飛距離を記録し、優勝しました。

デザインコンテストでは、個性豊かな機体が出揃い、**堀尾 宗志さんが最優秀賞**に輝きました。

順位	デザインの部
最優秀賞	堀尾 宗志
優秀賞	ひなた & なぎと
優秀賞	頓所 茉季



順位	規定の部		自由の部	
1位	谷定 ニイナ	92.06 m	小松 博	128.12 m
2位	斉藤 彩	91.20 m	ひなた & なぎと	85.24 m
3位	脇田 佐助	90.66 m	杉山 太洋	84.56 m